

日本人の自然観と衣食住

2017年2月25日

世界で特異な日本の気候と立地条件
四季の変化に生かされる日本人

自然観

日本人と欧米人では肌の色、外観が違うだけでなく、考え方もかなり違います。

日本人は神道・仏教徒が多く、欧米はキリスト教徒が多い、その宗教心の違いから、自然に対する考え方が根本的に違います。人間・自然・神の三文字をあげ、その優先順位を聞いてください。

たいていの日本人は1番が自然、2番が神、3番が人間と答えます。

一方、欧米人は1番が神、2番が人間、3番が自然と答えます。日本人は自然が最優先、欧米人は自然は最後の位置づけ、自然の位置づけが全く違うのです。



欧米人(キリスト教)の考え方は以下のようなものです。

人がすみ始める前の、自然の土地は薄暗く狼の住む荒れた森林だった。人間はその深く暗い森林を神であるキリストの教えに従い、幾多の困難を克服し開墾に成功した。太陽が注ぎこむようにし、家を建て、動物を飼い、食べ物を作り生活の場を確保してきた。人間は自然を克服し現在に至っている・・という考えです。

ですから、神が1番、人間が2番、自然は人間に征服された最後の3番となります。英語の文化(カルチャー-culture)は開墾する(cultivate)からきています。

日本人は年間40°Cの温度差、大きな湿度・降雨量差のある四季の変化を衣食住で乗り越えてきました。日本の降雨量は世界平均の2倍、欧州の3倍という多雨国、水に恵まれた国なのです。更に極東の火山列島(四方を海に囲まれた島国)から起こる大地震・大津波・台風・大雪・河川の氾濫などの大型自然災害を幾度となく経験しています。

古代から現在まで、日本人は世界の先進国には例のない厳しい気象や立地状況下、自然環境に順応し生き延びざるを得なかったのです。いまではそれが当たり前になっていますが・・自然の恵み・恐ろしさをいやというほど経験してきた結果、自然の偉大さを肌で感じる様になり日本人にとって自然は人智を越えた偉大な存在なのです。

日本人の感覚では自然が1番、2番が神、3番が人間なのです。

国土の森林比率が68%と先進国では特筆して高いのも自然を敬い、保護してきた日本人の歴史の一端なのです。中国はじめ欧米では森林を伐採し続けてきた自然破壊の過去があります。

日本人の衣食住

我々、日本人は季節の変化に合わせて、その都度、当たり前のように着るものを変え、衣類の選択には大変敏感です。季節に合わせ、衣類・寝具などを調整、扇風機・エアコンなどを使い、温度・湿度調整をしながらの生活をしています。大人から子供まで、男女を問わず、日常的に順応しているのです。



年間の温度差40°C、加えて多湿を乗り越えてきている日本人。生まれてからこの繰り返しをしていますから、当人は当たり前前に思っていますが、季節の変化差の少ない欧米人や一年中、Tシャツで過ごせる東南アジアの人々には考えられないことでしょう。

日本人は自然の変化に対して敏感で観察力・順応力が高いのです。この順応力の高さは日常生活だけではなく、日本の古典文化、近代の文化、そしてビジネスの場でも生きています。古典日本文化の季節感あふれる美、繊細さ、近代文化を代表する漫画、アニメなども日本人の季節の変化に対する繊細さや順応力と深く関係していると思います。細かい部分にも気が回るのが日本の特色です。

日本人は世界のどこに行ってもすぐになれる・・と言われます。生まれてからずっと体験している季節の変化に対応する習慣が身につく、環境が変わった場所でもすぐに順応できるような思考体系になっているのでしょう。

環境対応力、人間対応力が強いのです。

食べ物も季節の旬を大事にします。季節季節の旬の食べ物には多くの酵素が含まれていることを経験上、知っていたのでしょう。また日本は味噌・醤油・漬物・納豆・酒など発酵食品大国なのです。

季節感あふれる日本食は素材の新鮮さを大事にします。できるだけ生に近い状態でいただきます。魚貝・肉・野菜・海藻・・強火で煮たり、焼いたりする中国料理、フランス料理などとは根本的に違います。

現在の住は一軒家、マンション共にエアコンが備わり、季節の変化に対応しています。かつての日本の家は、夏になると窓を開け、風通しを良くし庭に水をまき、温度調整をしていました。我々の子供の頃、夏になると入浴、蚊帳は夏の夜の必需品でした。